



いのり×まもり

延暦寺本覚院 慈恵大師坐像

疫病退散

比叡山中興の祖 元三大師 良源 — いま靈験あらたかに衆生を救いたもう

第十八世天台座主 慈恵大師 良源さまは強い神通力をそなえ
平安時代に都にはびこる疫病を退散させました。

そのお姿はさまざまなお札となり皆さまをお守りしています。

天台宗群馬教区では

「仏神のご加護」と「菩提寺の祈り」と「檀信徒の願い」を
ひとつにして心身安らかな暮らしを目指します。

力を合せ新しい明日へともに歩んでまいりましょう。



角大師



豆大師



鬼大師



良源御影

角大師

魔を滅する
良源の化身



角大師示現悪鬼降伏図

疫病が流行っていた平安時代のある雨の夜、比叡山の良源のもとに疫病神が現れた。良源は疫病神に向かい「ここから入れ…」と、左手小指を差し出した。するとすぐさま高熱を発し、耐え難い苦痛を感じたが、良源が法力を使い右指を弾くと、疫病神は退散し傷みが和らいだ。

疫病の苦しみを知った良源は即座に鏡の前で禅定に入った。弟子にこれから現れる自分の姿を筆で写すよう命じると、鏡に映る良源の姿は、角が生え骨と皮ばかりの鬼の姿に変わっていった。

「一刻も早くこの姿を版木に刻んで刷り、人々に配り戸口に貼るように伝えなさい」と良源は命じた。お札を貼ると疫病をはじめとする一切の厄災が寄り付かなくなった。以後このお札を「角大師」とあがめ、毎年新しいお札を戸口に貼るようになった。



慈恵大師(じえだいし)良源とは

延喜12(912)年9月3日 - 永観3(985)年1月3日

平安時代の比叡山の高僧。第十八世天台座主。荒廃していた諸堂を復興させたことから比叡山中興の祖と崇められる。正月三日に遷化されたので元三大師(がんだいし)と親しまれ、「慈恵」の諡号を天皇より賜わったことから慈恵大師とも呼ばれる。おみくじや、たくあん漬の考案者としても有名である。数々の靈驗や説話が残されており、『厄除け大師』として現代に至るまで民間から強い信仰を集めている。



新しい生活様式
×
お寺まいり

安心してお参りして頂くために
お互いさまのこころづかい

